

第1回 水木しげる記念館再整備基本構想・基本計画検討委員会

日時：令和3年8月31日（火）15：30～

場所：Z o o m ・境港市役所第5会議室

《 次 第 》

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 委員長の指名
- 4 委員長挨拶
副委員長の指名
- 5 検討事項等
 - ①与件整理
 - ②現状施設の課題整理
 - ③先進事例の報告
 - ④再整備の視点
 - ⑤基本理念（目指す施設像）
 - ⑥基本方針
 - ⑦基本コンセプト
 - ⑧全体スケジュール
- 6 その他
【次回 第2回】令和3年10月 日（ ） ： ～
- 7 閉会

1. 与件整理

第2期境港市総合戦略（令和2年2月）

基本目標① 3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり

目標 水木しげるロード年間観光入込客数：年間200万人以上の維持

施策の基本的方向
(2) 観光振興
①観光地の魅力向上による滞在型観光の推進
②外国人観光客の誘客促進
③米子鬼太郎空港・国際定期客船の利用促進

基本目標② 「子育てするなら境港」を標榜した子育て環境づくり

圏域の目標 県境を越えた広域連携による魅力ある圏域づくり

- ・水木しげるロードの官民連携による街並み整備の促進
- ・水木しげるロードのライトアップなど夜間の賑わい創出及び滞在時間延長の取組の推進
- ・観光客の満足度向上のため、水木しげる作品のキャラクター着ぐるみによるおもてなしの充実
- ・圏域内観光情報アプリの活用などの観光ICT化の推進
- ・水木しげるロードと他の観光施設を結び無料シャトルバスの運行などの二次交通の充実

「水木しげる記念館」のあり方に関する最終提言書（令和3年3月）

最終提言内容

現地建て替えが必要

再整備では休館せず営業を継続することが理想

→ 休館期間短縮のための創意工夫が必要

水木しげる記念館を中核としたさかなと鬼太郎のまち境港市拠点計画（文化庁）

目標① 記念館への日本人入館者数
2019年度 231千人 → 2025年度 238千人（+7000人）

目標② 記念館への外国人入館者数
2019年度 13千人 → 2025年度 17千人（+4000人）
※10年後（2030年度）には26千人

目標③ 水木しげるロード滞在時間
2020年度 1.75時間 → 2025年度 3.0時間（+1.25時間）

目標④ 記念館入館者に占める宿泊者
2020年度86.6% → 2025年度 87.4%（1.01倍）

文化観光拠点施設機能強化事業

1. 文化資源の魅力増進

- ①拠点施設コンテンツ強化事業
- ②ナイトタイムエコノミー事業
- ③もののけ3館連携事業
- ④水木しげる聖地巡礼事業
- ⑤路地裏を活かした昔体験事業
- ⑥水木しげる記念館展示物改修事業

2. 文化についての理解促進

- ①妖怪文化伝承事業
- ②水木しげる記念館多言語表記事業
- ③多言語オーディオガイド導入事業
- ④水木しげる記念館解説強化事業

3. 文化観光に関する利便の促進

- ①ミュージアムネットワーク事業
- ②案内標識多言語表記事業
- ③予約システム構築事業
- ④水木しげる記念館等Wi-Fi整備事業
- ⑤キャッシュレス決済導入事業
- ⑥拠点施設周遊バス造成事業

4. 飲食、販売、宿泊等との連携の促進

- ①水木しげる記念館限定グッズ開発事業
- ②「のんのんばあとオレ」体験事業

5. 国内外への宣伝

- ①妖怪文化情報発信事業
- ②デジタルサイネージ整備事業
- ③各種記念式典等開催事業

6. 施設又は設備の整備

- ①水木しげる記念館再整備事業

水木しげるロード街なみ環境整備事業

建物の整備に関するルール

修景イメージ

- ・和風を基調とし、昭和レトロをイメージさせるものとする。
- ・水木しげる氏の作品をイメージさせ、ブロンズ像の背景として水木しげるロードに調和させるものとする。

建物高さ ・おおむね2階建て以下とする。

色彩 ・水木しげる氏の作品にある自然素材の色を基調とする。

屋根形状 ・原則として傾斜屋根とする。

壁面 ・水木しげる氏の作品をイメージさせる素材・意匠とする。

駐車場 ・駐車場の周囲は、車両の出入りや歩行者の安全性に配慮しつつ、建物等と調和した壁等を設置する。

広告物等

- ・看板、のぼり等広告物は、自家用で適切な大きさのものとし、建物等と調和するものとする。
- ・デザインは、和風を基調とし、昭和レトロをイメージさせるものとする。

車庫・物置・その他設備等

- ・車庫や物置、空調設備の室外機等は、道路等の公共空間から可能な限り見えない位置に配置する。
- ・見える位置にあるものは、可能な限り、建物に準じた修景を行う。

自動販売機等

- ・自動販売機等は、色彩に配慮し、可能な限り木枠で覆う等、建物等と調和するものとする。

2. 現状施設の課題整理

水木しげる記念館の強み

「水木しげる先生」「妖怪」「地域の人々」が一体となり作り上げた、世界に誇る唯一無二のブランド価値

1. 水木しげる先生そのものの魅力

- ・波乱万丈の人生から見える、独自の生き方や人生哲学
- ・妖怪に姿を与え、妖怪文化を現在に継承した妖怪研究者としての一面
- ・妖怪を求めて、世界中を冒険した好奇心

2. 数多くの魅力的な作品群

- ・漫画家として半世紀以上に渡り第一線で活躍幅広い世代に愛されてきた数多くの作品
- ・人間味あふれ、親しみのあるキャラクター

代表的な作品

妖怪	墓場鬼太郎、ゲゲゲの鬼太郎、悪魔くん、妖怪画談、決定版 日本妖怪大全 等
怪奇	墓の町、不死鳥を飼う男、猫又、畏悦録 等
戦記	水木しげるのラバウル戦記、総員玉砕せよ!!、昭和史、白い旗、ダンピール海峡 等
伝記	猫楠、20世紀の狂気ヒットラー、星をつかみそこねる男 等
古典	水木しげるの古代出雲、水木しげるの遠野物語、今昔物語 等

3. 地域と積み上げた活動の知名度

- ・水木しげるロードのランドマークとして年間24万人が訪れる施設
- ・水木しげるロードでは、「妖怪」「鬼太郎」をテーマとした、地域住民の自発的な取り組みでさらに魅力が向上
- ・年間200万人が訪れる観光都市に地域おこしの成功例として全国的にも注目

水木しげるロードのあゆみ

1993年	水木しげるロードオープン
2003年	水木しげる記念館オープン
2018年	水木しげるロード大幅リニューアル

4. 作品世界を実際に味わえる土地

- ・水木先生が幼少期を過ごし、見えないものへの興味や好奇心を育んだ境港の自然・文化
- ・境港市内には、水木先生にゆかりのあるスポットや観光資源が多数点在（生家、正福寺、鬼太郎列車、米子鬼太郎空港、弓浜半島、境台場公園 等）
- ・かつてのノスタルジックさを残し、水木先生の作品の世界観を体感できる水木しげるロード

水木しげる記念館の課題

貴重な作品を適切に扱える環境整備と、多様な来訪者を集め、その満足度向上を図る

1. 作品の展示・保存環境の整備

- ・年々増加する貴重な資料を保存するスペースが不足しており、とくに原画資料を適切に展示・保存できる環境が整っていない*
- ・常設展示を中心とした構成となっており、企画展示室の定期的な展示入替えができていない*
- ・先進的な技術を用いた利便性の高いコンテンツ導入の遅れ*

2. 水木しげるロードからの誘客

- ・水木しげるロードのから記念館への取り込みが限定的であり、2回目以降の来館につながる取り組みに課題がある
- ・市内に宿泊施設が少なく、ロードや宿泊施設との連携が十分ではないため、エリアの滞在時間が短く、観光消費額が少ない*
- ・夜間の賑わいを創出する取り組みが不足
- ・水木作品に描かれた聖地等、周辺地域への周遊を促進する機能が不足*

3. 多様なニーズを受け入れる環境

- ・団体利用者を受け入れるためのスペースが不足
- ・外国人利用者への対応力不足（多言語での表示や音声ガイド、キャッシュレス決済等）*
- ・多目的スペースや体験型コンテンツ等、何度来ても楽しめる要素が少なく、リピーターを増やしていく*
- ・施設の混雑緩和、空調システムを含む喚起対策等、感染症予防に対応した大規模な環境整備ができていない*

4. 事業発展のための充実した運営体制

- 現状の運営体制
- ・館長（非常勤）
 - ・職員（1名）
 - ・事務員（3名）
 - ・案内員（11名）
 - ・着ぐるみ隊（6名）
- ・専門知識を有する人材が配置できず、資料の保存管理や、展示替えに課題がある

3. 先進事例の報告

視点1 マンガ文化を伝える施設

マンガ文化の拠点として
地域と一体となり活動を展開

トキワ荘マンガミュージアム

所在地：東京都豊島区／開館年：令和2年

- ・かつてマンガの巨匠が住んだアパート「トキワ荘」を再現したミュージアム。2階ではマンガ家の部屋を忠実に再現し、1階ではマンガアニメ文化の情報発信をする機能を整備。
- ・マンガアニメ文化を感じられるまちづくりを進める南長崎地域における拠点施設として、地域と一体となった活動を展開。

「原画」を後世に伝える
アーカイブシステムを整備

横手市増田まんが美術館

所在地：秋田県横手市／開館年：令和元年（改装）

- ・20万枚以上のマンガの原画を収蔵するマンガ美術館。世界に1枚の貴重な原画を後世に残す館の役割を来館者に伝えるべく、「見せる収蔵」をコンセプトにアーカイブ活動を見せる形で展示室を整備。
- ・アーカイブ化されたデジタル原画をタッチディスプレイで来館者が自由に鑑賞できるシステムを整備。原画を守りながら活用する機能を実現。



視点2 地域に根差す人物記念館

展示のほか多目的スペースを
整備し事業展開を拡大

小泉八雲記念館

所在地：島根県松江市／開館年：平成28年（改装）

- ・展示を見せるだけの施設ではなく、ここを拠点として「広域的な広がり」を持たせる場所を目指し、様々な活動を支えるライブラリーや多目的スペース機能を新たに整備。
- ・積極的な他館連携やWEBを活用したプログラム展開等を行い、賑わいを生み出している施設。

展示機能と市民交流機能が
両立した空間実現

新宿区立漱石山房記念館

所在地：東京都新宿区／開館年：平成29年

- ・気軽に誰でも利用できるオープンな記念館を目指し、1階はガラスを多用した明るいオープンスペースとし、展示・カフェ・図書機能が混合された開放的な空間を整備。
- ・文学館として展示収蔵機能を保持しながら、地元住民の普段使いなど交流を促進する空間を実現。



視点3 集客力のある文化観光施設

古戦場跡巡りを促す
周遊拠点施設

岐阜関ヶ原古戦場記念館

所在地：岐阜県関ヶ原町／開館年：令和2年

- ・来館者が展示を見ることで関ヶ原の戦いを知り、学び、興味を持ち、その後の古戦場跡地に自発的に巡ってもらうことを狙い、施設全体で一連のストーリーをもった周遊拠点となっている。
- ・施設1階の映像展示で関ヶ原の戦いの概要を知り、2階の展示室で文化財資料を鑑賞し、3階の展望室からは古戦場を360度眺めることができる。

アクセスの不便さを
徹底したおもてなしで克服

足立美術館

所在地：島根県安来市／開館年：昭和45年

- ・アクセスの不便な立地にあるため、営業部を設置し、ツアー・団体客、個人客への営業を行う。平成27年からは大阪オフィスだけでなく、東京オフィスに広報マネージャーを設置し、首都圏マスコミへの営業も強化。
- ・来館者第一主義に努め、庭園の木が成長した際のスペアまで用意するなど、管理・清掃を徹底して行う。



視点4 地域振興への取り組みを行う施設

リニューアルにより、市民の
普段利用を狙って機能を整備

神戸市立博物館

所在地：兵庫県神戸市／開館年：令和元年（改装）

- ・サービス向上と市民や観光客が立ち寄り交流する事を命題に施設ゾーニングを大幅に変更。
- ・有料エリアとなる文化財展示室・特別展示室は2階以上に集約し、施設1階全体を無料ゾーンとして神戸通史展示室やカフェ、ライブラリー機能を整備。1階を起点に様々な利用を誘発する施設構成と再編した。

指定管理者による
収益拡大と地域振興を目指した運営

呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）

所在地：広島県呉市／開館年：平成17年

- ・「大和ミュージアム」という愛称が認知度向上に寄与。さらに、修学旅行等の団体対応の丁寧さが口コミで広がり、来館者の増加につながった。
- ・ミュージアムショップの商品の約7割は地元企業のものであり、また館内で完結するのではなく、近隣の店での飲食を促す等、指定管理者による運営でありながらも、地域振興に配慮した運営を行う。

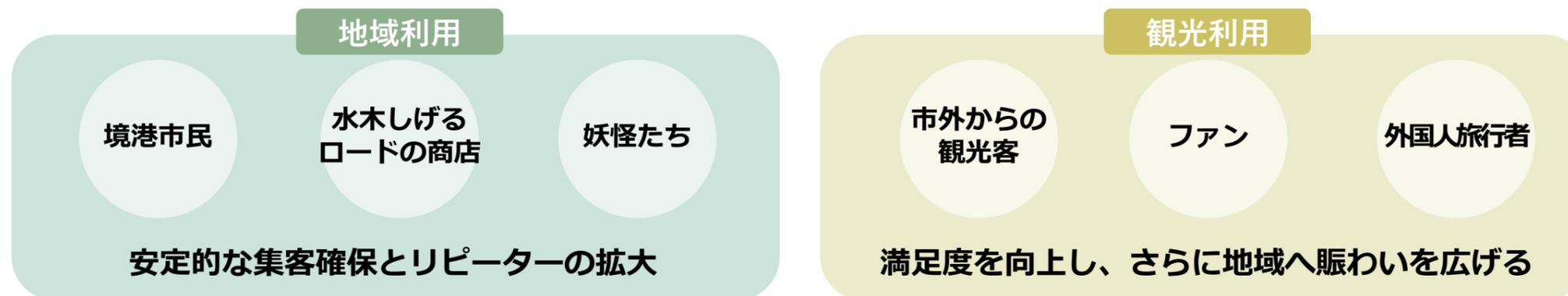


4. 再整備の視点

一過性の話題づくりよりも、持続的なにぎわいづくりを重視 時代にあわせて地域と施設がともに成長し、境港市の文化として根付く施設へ再整備

<p>1 施設 の視点</p> <p>水木しげる先生の価値を継承し、次代につなぐ「ふるさと境港」だからできる博物館づくり</p>	<p>2 活動 の視点</p> <p>多様な来訪者のニーズを満たす活動づくりで、地域利用と観光利用をより一層促進</p>	<p>3 連携 の視点</p> <p>多様な主体と連携し、時代に沿った柔軟な事業拡大へとつなげる関係づくり</p>
<p>「水木しげる先生」を伝える唯一のミュージアムとして、貴重な原画や資料を守り、多くの人々に伝えるための環境整備等、博物館としての機能をより強化することを目指します。</p>	<p>持続的なにぎわいを生み、安定した集客を続けるために、地域住民と観光客を重点ターゲットとし、多様なニーズを想定した事業活動の計画や施設環境を整備することで、より一層満足度を高め、何度も訪れたい施設を目指します。</p>	<p>水木しげる記念館を拠点として、地域、市域、圏域など、ネットワークを強化することで柔軟な事業発展を目指します。多彩な連携により滞在時間延長や周遊促進を図り、市域全体に経済効果を広げることを目指します。</p>

主なターゲット



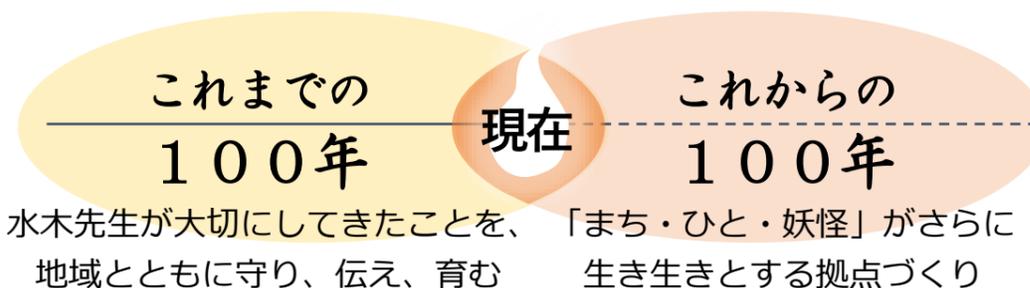
年間25万人の集客と、市への経済効果の向上を目指す

5. 基本理念（目指す施設像）

時代の節目である生誕100周年の今、これからの100年も幸福な出会いが訪れる施設づくりに向けて

水木しげる先生が歩んだ **100年** を継承し

次の **100年** へ想いをつなげる **文化観光創造拠点**



6. 基本方針

1 施設の方針

次の100年に水木ワールドを守り伝えるために
「ホンモノ」を扱う博物館へ施設機能を強化

貴重な資料を「守る」保存・収蔵の整備

- 資料の適切な保存環境や適正な面積規模を検討し、施設全体で「包んで守る」発想で、貴重な原画や実物資料を安全に保存・収蔵する施設計画へつなげます。
- 既存の先生直筆の壁画を安全に保存し移設する計画も検討します。

資料の価値を「魅せる」展示の整備

- 水木先生の波乱万丈な生涯と、そこから生み出された個性的な作品の価値をさらに魅力的に伝える展示のあり方を検討します。
- 原画資料など貴重な資料を公開するための展示環境を整備し、ホンモノ志向の博物館づくりを計画します。

2 活動の方針

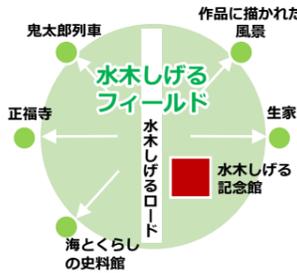
次の100年も人々に愛され続けるために
水木しげるロードと一体となる開かれた場と活動づくり

ロードとつながり、さらに活性化。多様な来訪者が集まり交流できる場

- 多様な活動を支え、地域の人々が何度来ても飽きず楽しめる場の整備と、運営のあり方を計画します。
- コロナ後のインバウンド旅行者や団体利用者など、多様な来館者に対応できる施設機能の強化を検討します。

施設周辺を「水木しげるフィールド」へ

- 水木しげるロードのにぎわいをさらに高め、その充実を市域に広げる活動を計画します。
- 周辺地域を広く「水木しげるフィールド」として位置付け、市域に残る資源とつなげて活動の場を広げます。
- 水木しげるロードのにぎわいを周辺に拡張し、まち巡りをしながら市内への周遊を促し、経済効果を高めます。



3 連携の方針

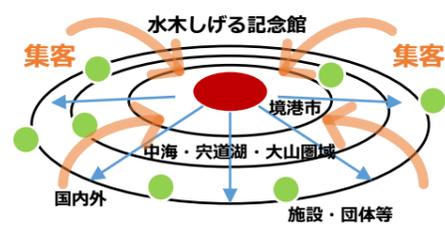
次の100年もまちに賑わいが続くために
多様な主体を結び、発展しつづける連携づくり

関係団体様、地域の人々とともに発展していく多彩な活動

- 現在ある課題を解決し、地域の強みをより活かすために、関係団体様やロードの商店街の人々のご意見を反映し、地域の実情に沿った活動計画を検討します。
- 関係団体様や周辺地域と密に連携することで、時代の流れに柔軟に対応し、持続的ににぎわいをつくる体制構築を図ります。

市域・圏域へ経済効果を広げる連携づくり

- 市内外の多様な施設や団体との連携を強化し、境港市、中海・宍道湖・大山圏域へにぎわいを広げます。
- 連携を通じた多彩な活動により、市域への一層の経済効果、圏域へ経済効果の波及を目指します。



連携による多彩な活動

- ▶ 境港市への集客アップ
- ▶ 周辺への経済効果の波及

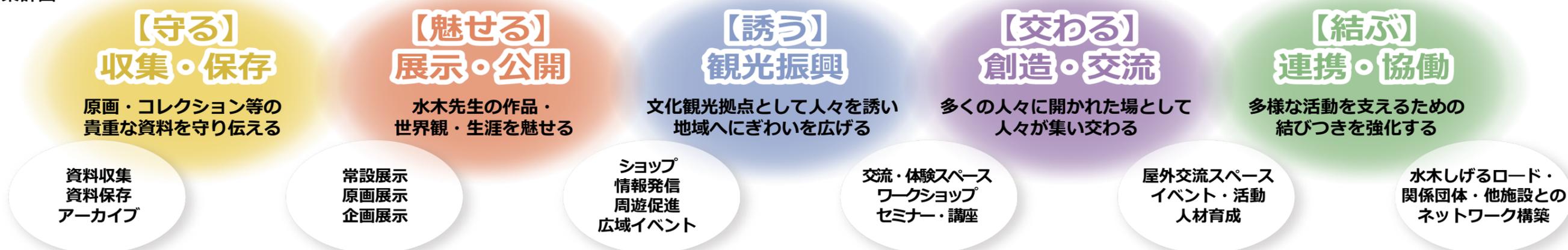
7. 基本コンセプト

行き交う、つながる、混ざり合う

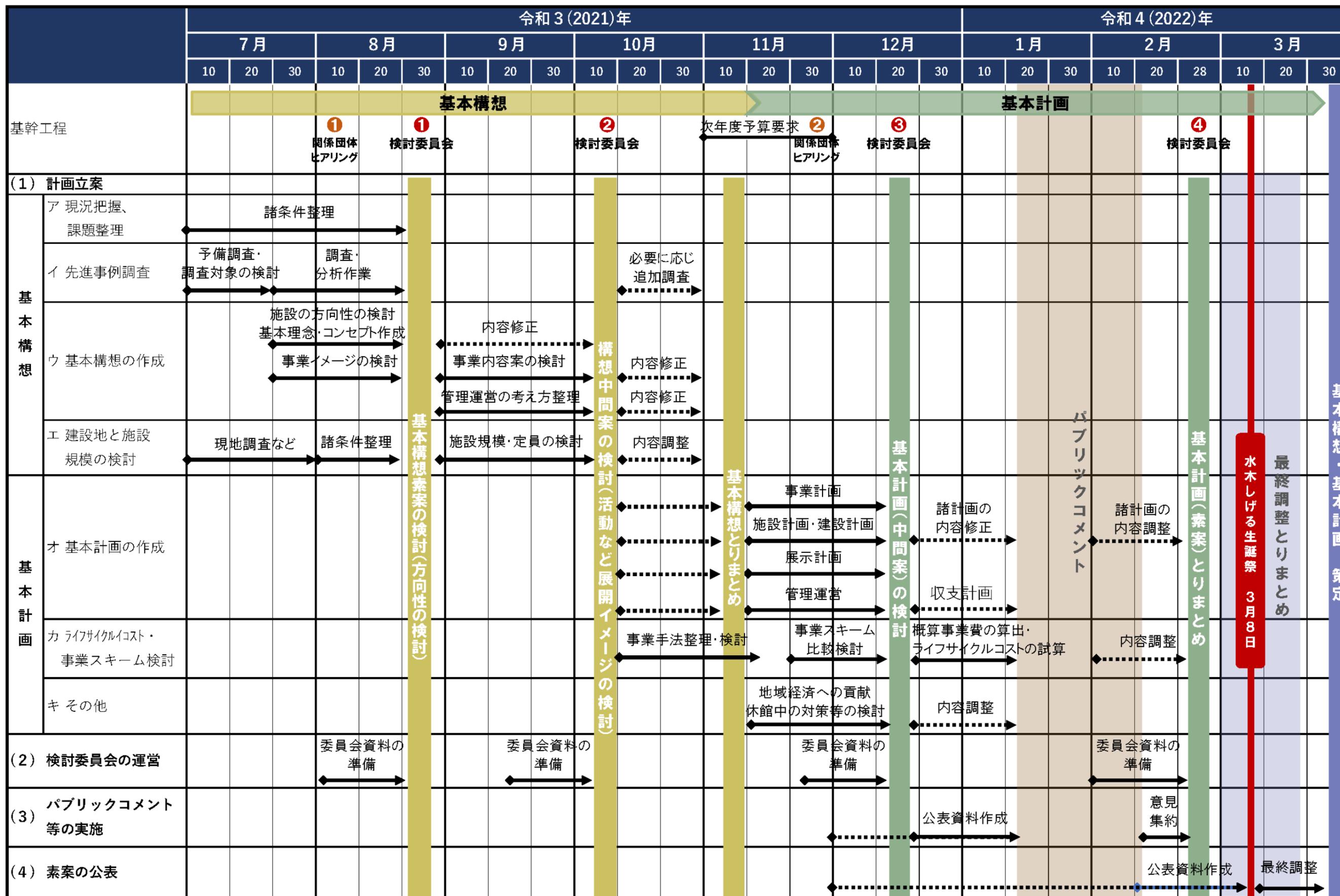
「境」からはじまる新しい出会い

古くから海と陸の「境」として物質・文化の流入基地として栄え、新しいものを受け入れる人々の気質も相まって、唯一無二のまちへと進化してきた境港。そして、人間界と霊界の「境」、実体験と創作の「境」、生と死の「境」。水木しげる先生は様々な「境」から独自の世界観を創造してきました。すぐ隣り合わせにある世界が行き交い、つながり、混ざり合う。今まで見えなかったものに出会える場所としての「境」を基本コンセプトとします。

事業計画



8. 全体スケジュール



※ 「地域住民ヒアリング」実施時期を調整中